



孔子 (世界の偉人)

6月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2023年6月1日(木)

孔子は、釈迦、キリスト、ソクラテスと並び、世界の四聖人(四聖)に数えられている。

中国春秋時代(BC770年～BC403年)の約1,500年前に魯国で生まれ、周初(BC11世紀)への復古を理想とした。

孔子の教えは、戦国から漢初にかけては、それほど人々の間で振るわなかったが、前漢・後漢を通じ勢力を伸ばして国教化された。以後儒教は中国思想の根幹たる存在となった。

最初、生国の魯に仕えたが応えられず、諸国を歴遊して治国の道を説くこと二十余年、用いられず帰国して教育と著述に専念する。

孔子の父は、魯の下級武士で斉との戦争で武勲をあげたという。孔子3歳の時父が没し、母の手で育てられ、成年になってから倉庫番や牧場の飼育係をしながら学問を自習したという。

36歳の時、魯の昭公が斉に亡命した時斉に行く。数年間斉にとどまり、43歳の時、孔子は魯に帰る。この頃から子路などの弟子が集まり、孔子の名声が高まる。以後14年間、宋、楚などの諸国を流浪するが、どこへ行っても採用されず69歳でまた魯に帰る。

「詩経」、「書経」を編纂し、「易経」を注釈、「春秋」を創作したと言われる。

「論語」は孔子の死後、その弟子たちが儒家としての孔子の言行録を編んだものである。約3,000人の弟子がおり、「身の六芸に通じる者」として70人、そのうち特に優れた高弟は「孔門十哲」と呼ばれ、徳行、言語、政事、文学に優れていた。孔子の死後、性善説を唱えた「孟子」と性悪説を唱えて礼法による教育を重んじた「荀子」は有名である。

孔子は、乱世を治めるためには、周の初めの制度に復帰すべきだと考えた。

為政者は有徳者でなければならず、法律による厳しい規制よりも、道徳や礼儀による教化こそが理想的な支配の方式だと考える。

孔子の頃の人々は、呪術で神意を伺い、それによって行動するのが常であったが、孔子は人間は良心の命令によって行動すべく、神の意志によって行動すべきではない。神々は、これを尊敬しながらも不可知のものとしてそっとしておけと言う。

ここに思想史上の孔子の画期的な意味がある。

参考：(日本大百科全書、ウィキペディア、百度)